

研究構想シート		学校名	海士町立海士小学校
		氏名	小林 聡子
A 研究主題		自分の思いや考えを分かりやすく伝える児童の育成	
B 研究の目的		教師も児童も楽しく学び合う授業づくりを通して自分の思いや考えを分かりやすく伝える児童の育成を目指す	
C 子どもの実態 ○何事にも意欲がある。 ○読書に前向きに取り組む。 ○学習したことを日常や他の活動に活かそうとする。 ○自分の思いを伝えたい気持ちが強い。 △相手に分かりやすく順序立てて話せない。 △自分の考えを書いたり、発表したりする時に自信がない。 △文章から内容を読み解くのに苦手意識がある。  【教師の実態】 ○新しいことにもやってみようとする意欲が高い。 ○互いに協力しあう姿が見られる。 ○地域の行事に参加し、地域とのかかわりを大切にしている。 △児童が主体的になる活動計画が立てられない。 △児童に対して説明が長くなる。 △自分から本当に困っていることを聞いたり、相談したりすることに苦手意識がある。	E 手立て・内容（研究仮説） 必然性・必要感のある単元構成や表現する場を工夫すれば、自分の思いや考えを分かりやすく表現する児童が育つであろう。 ①児童にとって必然性・必要感のある単元計画の作成 ・他教科との関連を考える。 ・複数の教員でグループになり、早めに授業づくりに取りかかる。 ②自分の思いや考えをもつ場面や表現する場における指導の工夫 ・授業の中に書いたり読んだりする活動を取り入れる。（発表なども） ・全体で話し合った後に個人思考の場面を取ったり、ふりかえりをしたりする。 ③日常での指導の工夫 ・フラッシュカード、作文指導、関連読書の活用		
	D めざす子どもの姿 ○自分の思いや考えをもち、自信をもって伝えることができる。 ○自ら学ぶことが楽しいと感じる。 ○失敗しても大丈夫！やる気・勇気・根気で取り組む。  【目指す教師の姿】 ○児童が意欲を持ち主体的に学習に取り組める活動計画を考えることができ、伴走することができる。 ○子ども同士が学び合う授業。 ○教師自らの強みや得意を他の教師に伝え、認め合える集団づくり。		
	F 検証方法 発達段階や授業のねらいに応じて、各学年2，3名抽出児の変容をみる。また児童の変容が分かるよう記録を残す。 研究授業等の前には、児童の反応を予想し手だてを考え記録を取るようにする。その後の研究協議も児童の様子をもとにどうだったかをふりかえる。		
G 研究計画		・1，2学期中に国語科で児童が自分の思いや考えを表現しているところを研究授業で公開する。 1学期（金山、小林）どちらも6月中に行う。 2学期（9月：金山、並河、田中、丸山、長崎） ・授業後は、研究協議等を行い、よりよい授業づくりを目指す。（付箋、ICT活用） ・夏休み中（7月29日）に職員研修をし、教師全体の意欲を高める。 ・研究授業の他に公開したい授業があれば積極的に参加を呼びかける。 ・日頃から指導主事に授業を見に来ていただき、連携を図りながらよりよい授業づくりに努める。	